



コロナ禍で入職した私の海外出張

国立国際医療研究センター国際医療協力局 人材開発部

研修課 田村 葉月

「〇〇先生は今どこの国？」「△△さん、おかえりなさい。」

この会話は、執筆現在（2023年1月）、私の勤めるNCGM国際医療協力局（以下協力局）では日常的に行われています。今でこそ日本の水際対策が大きく緩和され、仕事としてもプライベートとしても海外に行きやすくなりましたが、それもここ数カ月の話です。

私が現職場に事務職員として配属されたのは、日

本で初めて緊急事態宣言が発令された2020年4月。コロナ禍ということもあり、海外出張のチャンスがあると聞いていたはずが、ずっとその機会が訪れずにはいません。このままこの部署を離れるのでは、とぼんやり感じていた2022年6月、短期間ではありましたが初めてベトナムに行くことができました。また、2023年1月にはカンボジア出張！ 突如たくさん訪れた海外出張の機会。その際の様子や私の感情を少し紹介しようと思います。



バクマイ病院

初めての海外出張であるベトナムは、NCGMグローバルヘルスフィールドトレーニング（以下フィールドトレーニング）の再開に向けて、関係者との調整と感染対策の実情を視察し、研修開催の判断および研修実施においての必要事項を整理する目的で実施されました。

フィールドトレーニングは協力局が実施している研修の一つです。国際保健医療協力を担う日本人の人材育成を目的に、2010年から毎年開催されています。ベトナムの現地の保健医療事情を把握し、現地の関係者ととともに、現地の課題を解決するためのプロジェクトを実際に考案することを目標とした実践的な研修です。この研修では、まず日本において専門家による問題解決方法に関連した手法を学ぶProject Cycle Management（以下PCM）の演習を行い、その理論、方法を学びます。その後、ベトナムに渡航し、現地の医療機関の状況を把握し、ベトナムの医療機関の関係者と共にPCMに基づいた、プロジェクトを作成する演習を行います。作成したプロジェクトは現地関係者および帰国後に日本の専門家たちの前でプレゼンテーションを行い、フィードバックを貰うところまで含んでいます。

例年通りハノイにあるバクマイ病院（Bach Mai Hospital）、ホアビン省のホアビン総合病院（Hoa Binh General Hospital）を訪れる計画を立てていることから、今回の出張でも訪れました。どちらも日本と長い間交流のある施設です。

やはり一番思ったことは、「人が温かい」。これに尽きます。日本人が数人訪れるというだけなのに、院長などの重役にもご対応いただいたり、立派な会議室が準備されていたりしました。また、多くのプレゼンを準備してくれる、倍以上の人が出迎えてくれる、水や軽食を提供してくれる、など。そういう環境に慣れていないこともありますが、正直申し訳ない気持ちになることもありました。こういった対応も“仕事だから”と言われればそれまでなのですが、これらの対応は長年の日本人とベトナム人が築いてきた関係性の上にあるものだと思われました。2023年、日本とベトナムは外交関係樹立50周年を迎えるそうです。私が生まれる遙か前から交流が続いています。NCGMにおいても2005年にバクマイ病院内に事務所を開設しており、日本とベトナム双方の保健医療に貢献する活動を続けています。このように長年関係性が続いているのも、温かいベト



準備いただいた立派な会議室



ベトナムで飲んだ美味しいコーヒー

ナム人の国民性も関係しているのでしょうか。

また、ホテルの従業員との出会いも印象的でした。私たちのために自腹で美味しいコーヒー豆を買ってきてくれ、最終日にプレゼントしてくれたのです。ベトナムはコーヒーが有名です。どうやら世界第2位の生産量を誇る国だそうです。実際、街中にはカフェが多かった気がしますし、どこでコーヒーを飲んでも美味しいと感じました。中でも、ホテルの朝食で提供されているコーヒーが一番美味しかったと思います。これは一緒に出張した人とも一致した意見でした。そこで、従業員にホテルで使っているコーヒー豆がどこで買えるか聞いてみたところ、市販のものではないことが分かりました。じゃあホテルから直接購入しよう、となったところを優しく対応していただきました。さらに、もっと美味しいコーヒーがあるよ、と次の日に買ってきてくれたのでした。人の優しさ、温かさに触れ、大好きなコーヒーがより一層美味しく感じられた出来事でした。

年が明けた2023年1月のカンボジアへの渡航は、令和4年度医療技術等国際展開推進事業（以下展開

推進事業）の一環として実施いたしました。展開推進事業は、日本の医療制度に関する知見・経験の共有、高品質かつ相手国のニーズに応える日本の医療製品・医療技術の国際展開を推進します。それにより、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献し、国際社会における日本の信頼を高め、日本及び相手国の双方にとって好循環をもたらすことを目的としています。

今回は展開推進事業の中のひとつ「カンボジア国における胸部X線画像病変検出支援機材（以下CAD：Computed-aid-detection）導入事業」における活動を実施しました。胸部レントゲンは、呼吸器疾患の診断に必須であり、カンボジアでも広く用いられていますが、読影技術は未熟で、病変の見落としのリスクがあります。日本の新型コロナウイルス対策支援で、日本の支援するバタンバン州病院（Battambang Provincial Referral Hospital）、コンポンチャム州病院（Kampong Cham Hospital）にCADが導入されました。2022年6月の現状調査では、CADに対する認知の欠如やCADの使用を開始するための機器接続が不十分であることが判明し、NCGMの医師より機材供与したJICAへの提言を行



コンポンチャム州病院

いました。今回、その後の進捗を確認し、機材の適正使用のためのシンポジウムを開催することとなりました。円滑なシンポジウムの開催に向けて、国内外での経費処理を適切に遂行することを目的とし、事務職員である私もカンボジアへ同行しました。

カンボジアで感じた事は、「東京と似ているな」ということ。東京は日本各地から上京してきている人が多く、東京名物というものは少ないと感じています。私自身が京都出身で伝統的な料理、文化が多いことも原因かとは思いますが、東京は多くの文化が雑多に存在している印象を持っています。カンボジア、特に首都プノンペンにも同じイメージを持ちました。現地職員と話をしている中で、カンボジアの有名な料理やお土産を聞いてみたのですが、あまり反応がよくありませんでした。どうやらタイ、ベトナムと隣り合っているからこそ、タイ料理とベトナム料理がミックスされたような料理が多いようです。雷魚などの淡水魚や鶏肉、野菜をココナッツミルク入りの卵液で蒸した料理アモック (Amok) や魚醤と砂糖、トマトが使われた甘辛味の牛肉料理ロックラック (Loc Lac) は有名です。でもそのぐらい、とのことでした。カンボジア料理、美味しく

て私はとても好きだったのですが…。さらに、首都プノンペンはタイ料理、韓国料理、日本料理など様々な国の飲食店が多く見られました。逆にカンボジアの伝統的な料理を提供している店を見つける方が難しかったかもしれません。多くの文化が入り混じるカンボジアは、多様性のある素敵な国だと感じました。日本よりも英語を話せる人が多い印象も持ちましたし、国としていろいろな可能性を秘めている気がしています。

今まで海外に目を向けていなかった事務職員が海外出張の機会を得ることで、世界、視野が広がると思います。実際、私がそうでした。海外出張に対して英語が話せないから、日常業務が滞るから、など敬遠する気持ちがあるのも分かります。願っても機会を得ることは難しいかもしれません。ただ、私は念願の出張でしたし、実際行けて良かったと強く思います。本文では業務上の知見を共有しておらず、個人的な感想ばかり羅列してしまいましたが、実際は業務として学びが多く充実した出張でした。将来的には医療専門職だけでなく事務職員など皆がグローバルな経験を積み、活躍していけたらいいな、と願っています。



1月のカンボジアで咲く向日葵

